

研究主題

主体的・協働的に学ぶ授業を通して、思いや考えを深める児童の育成

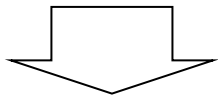
低学年（第 2 学年）分科会提案資料

児童の実態

1 年生のときから、児童が学習計画を立てたり、個別の学習課題を設定したりしている。学習計画については、教科書を見たり、今まで学習してきたことの経験を踏まえたりして、学習の流れの型がある程度定まってきている。個別の学習を立てることは何回か経験をしており、自分の学習感想から膨らませると課題を立てやすいということも分かってきた。しかし、課題解決をしているときに、自分で考えたことだけで学びを終わらせてしまう様子が見られる。それぞれの児童の課題解決の進捗状況が視覚的に分かるようにして、ほかの人の意見を聞くことによって、学びの視野を広げることができるようにしたい。

児童に付けたい力（指導事項）

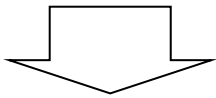
- ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。（知（1）ク）
- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（思 C（1）エ）
- 文章を読んで感じたことをや分かったことを共有することができる。（思 C（1）カ）



思考力・判断力・表現力



知識  
技能



分科会テーマ

対話を楽しみ、相手の考えを受け止め、自分の考えにつなげる児童の育成

テーマに迫るために

※○番号は読むことの物語文教材、□番号は話すこと・聞くこと単元。

	教 材 名	指導重点事項	言語活動
4 月	① ふきのとう	思 C（1）イ場面の様子や登場人物の行動など、内容のだいたいを捉えることができる。	思 C（2）イ読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、や威容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。
	①ともだちを さがそう	思 A（1）エ自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことができる。	思 A（2）ア紹介文や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。
6 月	② スイミー	思 C（1）エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。	思 C（2）イ読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。

	<p>② あったらしいな、こんなもの</p>	<p>思 A (1) エ話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。</p>	<p>思 A (2) ア紹介文や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。</p>
9月	<p>③ ことばでみちあんない</p> <p>④ おはなしピンポンゲーム</p> <p>③ お手紙</p>	<p>思 A (1) イ相手に伝わるように、話す事柄の順序を考えることができる。</p> <p>思 C (1) エ場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p>	<p>同上</p> <p>思 C (2) イ読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。</p>
11月	<p>⑤ そうだんにのってください</p>	<p>思 A (1) オ互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。</p>	<p>思 A (2) イ尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動。</p>
12月	<p>④ わたしはおねえさん</p>	<p>思 C (1) オ文章の内容と自分の体験とを結びつけて、感想をもつこと。</p>	<p>思 C (2) イ読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。</p>
2月	<p>⑥ たのしかったよ 2 年生</p> <p>⑤ スーホの白い馬</p>	<p>思 A (1) ア身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。</p> <p>思 C (1) カ文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。</p>	<p>思 A (2) ア紹介文や説明、報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。</p> <p>思 C (2) イ読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。</p>

日常活動の取組として・・・

- ・言葉ずもう
- ・質問じゃんけんゲーム
- ・好きなもの 10 個聞き出そう！
- ・これはなんでしょう
- ・いいね！大作戦

## 第2学年国語科学習展開案

令和2年9月30日（水）第5校時  
 杉並区立高井戸第二小学校 2年3組28名  
 授業者 教諭 松本 望

### 1 単元名 音読げきをしよう（全12時間）

学習材 「お手紙」（光村図書 2年下）

### 2 単元の目標

- ◎語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（知(1)ク）
- ◎場面の様子に着目して、登場人物の行動や、気持ちの変化、性格について具体的に想像することができる。（思 C(1)エ）
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。（思 C(1)カ）

### 3 単元の評価規準・単元に即した具体的評価規準

観点	ア 知識及び技能	イ 思考・判断・表現 【読むこと】	学びに向かう力 【主体的に取り組む態度】
単元の評価規準	○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（(1)ク）	○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。（C(1)カ）	○粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。
学習活動に即した具体的な評価規準	〈第一次〉 【知】語のまとまりに気を付けて音読をしている。〔音読〕	【思 C】場面の違いや、登場人物の行動など内容の大体を捉えている。 〔記述・発言〕	【態】単元の目標を知り、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 〔観察〕
	〈第二次〉 【知】語のまとまりに気を付けて音読をしている。〔音読〕	【思 C】場面の様子に着目して、登場人物の行動や心情、その理由、表情、口調、様子などを具体的に想像している。〔音読・発言・記述〕	【態】粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動や心情を想像しようとしている。〔観察〕
	〈第三次〉 【知】語のまとまりに気を付けて音読をしている。〔音読〕	【思 C】登場人物の行動や、表情、口調、様子などを想像して、音読している。〔音読〕 【思 C】友達の音読を聞いて、読み方や動きについて思ったことを伝え合っている。〔発言・記述〕	【態】これまでの学習を生かし、想像したことを音読劇に表そうとしている。 〔音読・観察〕

## 4 学びの構造転換に向けた単元の構成

### (1) 学習材について

本単元は、「がまくん」と「かえるくん」の二人の登場人物の行動を中心に物語が進んでいく「お手紙」と、「がまくん」と「かえるくん」が出てくる本を紹介している「この本、読もう」の2教材で構成されている文学的文章の単元である。挿絵や叙述から二人の登場人物の行動と心情がどう変わっていくかを読み取り、気持ちを想像する読みの力を育てたい。

「お手紙」は、友達の不幸せと一緒に悲しみ、幸せをともに喜ぶほのぼのとした心情を描いた作品である。2年生になり、友達との交流が増え、だんだんとその関わり方も変わってきた児童に、改めて友達のよさを伝える教材となっている。

#### 指導事項に関わって

本作品は、二人の登場人物の行動を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきり描かれた作品である。物語の展開に沿って、「がまくん」と「かえるくん」の行動と心情がどう変わっていくかを読み取らせたい。また、お手紙を待つ二つの場面の違いを、挿絵や叙述から読み取らせるなど、細かい点に注意しながら作品を味わう指導も併せて行いたい。

#### 「お手紙」の場面と挿絵

場所	挿絵（順に）	様子
がまくんの家	①	手紙を待つがまくんと家にやってきたかえるくん
	②	悲しい気分で玄関の前に腰を下ろすがまくんとかえるくん
かえるくんの家	③	がまくんへ手紙を書くかえるくん
家の外	④	かたつむりくんに手紙を届けるように頼むかえるくん
がまくんの家	⑤	お昼寝しているがまくん
	⑥	窓から郵便受けを見るかえるくん
	⑦	手紙を書いたことをがまくんに伝えるかえるくん
	⑧	幸せな気持ちで手紙が来るのを待つがまくんとかえるくん
(4日後)	⑨	かたつむりくんから手紙を受け取るがまくん

#### 言語活動に関わって

人物の言ったことや、したことを確かめながら、登場人物の気持ちについて想像する。本教材は、会話文が中心の作品であることから、会話をする二人の位置、距離、しぐさ、顔の向き等を考えることから、二人の心情を読み取ることができる。

#### 教材・題材に関わって

本教材は、特別な事件が起こるわけでもなく、4日遅れの、しかも内容の分かっている「お手紙」を、仲良く待つ二人の話である。お手紙を通して「がまくん」と「かえるくん」が心を通わせるストーリーは、読み手までもを幸せな気持ちにする。友達同士の交流によって温くなる二人の気持ちについて、共感をもって読み取りたい。

### (2) 学習者について

1年生のときから、児童が学習計画を立てたり、個別の学習課題を設定したりしている。学習計画については、教科書を見たり、今まで学習してきたことの経験を踏まえて、学習の流れの型がある程度定まってきたり。個別の学習を立てることは何回か経験しており、自分の学習感想から膨らませると課題を立てやすいという

ことも分かってきた。しかし、課題解決をしているときに、自分で考えたことだけで学びを終わらせてしまう様子が見られる。今まで学習してきたことを使ったり、他の人の意見を聞いたりすることによって、学びの視野を広げることができるようにしたい。

(3) 研究主題(「対話を楽しみ、相手の考えを受け止め、自分の考えにつなげる児童の育成」)に迫る手立て

#### 対話を楽しむ工夫

##### ① 話す聞くミニ単元、「お話ピンポンゲーム」の学習

低学年では、日常的に友だちと対話をする機会を増やすことで、対話そのものの抵抗感を減らしてほしい、相手の考えを聞いたり自分の考えを聞いて反応してもらえたりする楽しさを感じてほしいとの思いから、高二タイムで、「話す聞くミニ単元」を実施してきた。「いいね!大作戦」では相手のよさを認め合い、30秒で誉め言葉をたくさん言うことができた。「ことばずもう」では、言葉の連想を楽しみながら思いついた言葉を伝え合うことができた。1年生から継続しており、2年生では相手が言ったことを受け止めながら質問している姿が見られる。また、話す聞く特設単元として「お話ピンポンゲーム」の授業を行い、昨年度の研究で深めた「話を受けて返す力」を「つながり言葉」として意識させることで、より会話を主体的に継続することができ、対話の楽しさを知ることができた。

##### ② アーノルド＝ローベルの作品の読み聞かせ

学習材に興味をもたせ、進んで対話ができるように、教科書に掲載されている「お手紙」の他にも「ふたりはともだち」「ふたりはいつも」等、がまくんとかえるくんが登場するアーノルド＝ローベルの作品を読み聞かせしてきた。がまくんとかえるくんについて、ある程度の情景や関係性、人物像を与えることにより、2人が友情を育んでいる様子を感じ取らせ、児童が興味をもってがまくんとかえるくんの心情や行動等について対話ができるようにした。

##### ③ 音読劇

単元のまとめとして、1年生に音読劇を披露する。音読劇をするには、場面の様子や登場人物の様子を読み取り、心情を捉えることが必要である。単元のまとめに音読劇を設定することで、読み取りへの目的意識をもち、進んで学習に取り組めるようにした。また、ミニレクソンや協働を経て学んだことや感じ取ったことが豊かな音読につながっていくことを実感させながら、より対話のよさを実感できるようにした。

#### 相手の考えを受け止め、自分の考えにつなげる工夫

##### ① 短冊カード

進んで協働し、相手の考えを受け止めながら自分の考えにつなげて解決できるよう、児童一人一人の学習の進捗状況を短冊で表示するようにした。全員が短冊にシール(青→解決した、黄→もう少し、赤→まだまだ)を貼り、お互いに見られるようにすることで、相手の思考の状況を把握し、児童同士で声をかけながら課題の解決ができるようにした。また、低学年ということもあり、短冊の内容を参考にして教師の方で意図的にグルーピングして掲示した。自分と似ている課題を解いている友達を見つけやすくすることで、意図的に対話をする相手を選び、より充実した対話ができるようにした。上記のような手立てをすることで、より相手の考えを受け止めやすくし、自分の考えにつながりやすくなると考えた。

##### ② 振り返りカード

課題解決学習を行う第二次から、授業ごとに振り返りカードを記入させた。振り返りカードには、その時間の課題の進捗状況・学び方(個別か共同か等)・学びの引き出し(本文から証拠を見つける等、課題を解決した手立て)を振り返って書きとどめられるようにした。振り返りカードを記入させることで、教師はより子供の学びの状況を把握することができ、次時に向けた個別支援を具体化できると考えた。また、その振り返りカードを次時

の授業のはじめに紹介することで、協働することのよさを再確認させたり、自分の学び方を意識できたりすると考えた。

## 5 学習指導計画（全12時間 本時8時間目）

次	時間	学習過程	主な学習活動	☆教師の関わり ◆評価規準【評価方法】
第一次  <div>出 会 い</div>  <div>課 題 設 定</div>	1	・学習材を読み、児童の手紙についての知識や経験を交流する。	・伝えたい友達と交流したり、全体に発表したりする。	☆児童の経験や体験を大切にして、お手紙の話への期待感や関心を高める。 ☆宿題として出していた音読カードも活用できるようにする。
	2	・学習材を読み、感想を書く。	・思ったことや感じたことをノートに自由に書く。	◆知【音読】 語のまとまりに気を付けて音読をしている。
	3		・伝えたい友達と交流する。	☆挿絵などを活用しながら、視覚的にも理解しやすくなるよう配慮する。
	4	・話の大体をつかむ。	・場面を分け、登場人物や物語の設定などを話し合いながら理解する。	◆思・判・表【記述・発言】 場面の違いや、登場人物の行動など内容の大体を捉えている。
	5	・単元のめあてを確認して学習計画を立てる。 ・学習課題を立て、短冊に課題を書く。	・学習材を読み返し、学習感想をもとに、自分の考えたことを明確にしていく。	☆前時の感想と学習課題が途切れないように配慮する。 ☆学習計画や短冊は教室内に掲示し、いつでも見られるようにする。 ◆主【観察】 単元の目標を知り、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
第二次 <div>探 究</div> <div>協 働</div>	6 7 8 本時	・自分の考えを創る。 ・探求に浸る。 ・協働して学ぶ。	・必要に応じて友達と交流しながら探求する。  ・ポイントレッスン① 登場人物の話し方や様子 ・ポイントレッスン② 場面の様子に着目して登場人物の行動を想像すること ・ポイントレッスン③ 感じたことや分かったことを共有すること	☆教師は学びの探求者として関わる。 ☆学習過程において、個別、探求、協働が、学習者の選択によって行われるようにする。停滞してきたときは、意図的に与える協働も考える。 ◆知・技【音読】 語のまとまりに気を付けて音読をしている。 ◆思・判・表【音読・発言】 場面の様子に着目して、登場人物の行動や、気持ちの変化、性格につ

	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対する考えをまとめ、自分の考えを伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい友達と交流したり、全体に発表したりする。</li> </ul>	<p>いて具体的に想像することができる。</p> <p>◆主【観察】</p> <p>粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動や気持ちの変化、性格を想像しようとしている。</p>
第三次 協働	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読の工夫を考える。</li> <li>・グループで音読劇の練習を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読したい部分を決めてノートに書き写し、音読の工夫を考えることができる。</li> <li>・グループの中で役割を決めて、音読劇の練習をする。</li> </ul>	<p>◆主【音読・観察】</p> <p>これまでの学習を生かし、想像したことを音読劇に表そうとしている。</p>
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読劇を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生に音読劇を披露する。</li> </ul>	<p>◆知【音読】</p> <p>語のまとまりに気を付けて音読をしている。</p> <p>◆思・判・表【音読・観察】</p> <p>登場人物の行動や、表情、口調、様子などを想像して、音読している。</p>
	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元全体を振り返る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読劇でのそれぞれの工夫、良かった点や、想像したことを音読劇に表せた点について感想を伝え合う。</li> </ul>	<p>◆思・判・表【音読・観察】</p> <p>友達の音読を聞いて、読み方や動きについて思ったことを伝え合っている。</p>

6 本時の指導 (8/12時)

(1) 本時のねらい

場面の様子に着目して、登場人物の行動や、気持ちの変化、性格について具体的に想像することができる。

(2) 展開

学習内容	主な学習活動	☆支援 ◆評価規準【評価方法】
1 前時の学習活動を振り返る。	○登場人物の行動や会話から分かった人柄や、音読劇につなげるためにどのように考えたかということを振り返る。	☆これまで学んできたことがこれからの学習に生かされるという意識をもたせるために、これまでのポイントレッスンに関わる児童の学習の様子を紹介できるようにする。
<div>＜これまでのポイントレッスンから使える技＞</div> <div>・吹き出しを書いて気持ちを考える。</div> <div>・行動から登場人物の人柄を考える。</div> <div>・なりきったり、読み方を工夫したりする。</div>		☆どのような学び方をしてきたかということが視覚的に分かるように、学びの引き出しや質問の仕方の掲示物を示しておく。
2 自分の課題について考える。	○自分の課題解決に向けて、学び方や学びの引き出しをつかって考える。	
<div>【学び方】</div> <div>(1) 一人で考える。</div> <div>(2) 同じ課題の友達と考える。</div> <div>(3) 先生と考える。</div> <div>(4) 一人で考えて、ときどき友達や先生と考える。</div> <div>(5) 分からないことを質問する。</div> <div>(6) みんなで考える。</div> <div>【学びの引き出し】</div> <div>(ア) 本文から証拠を探す。</div> <div>(イ) 気持ちを考える。</div> <div>(ウ) 自分の経験から考える。</div> <div>(エ) なりきってみる。</div>		
3 学び方と本時の読みの振り返りをする。	○どのような学び方によって何が分かったかということを確認する。	◆場面の様子に着目して、登場人物の行動や、気持ちの変化、性格について具体的に想像している。 思・判・表【ノート・発言】  ☆課題を解いた過程が視覚的に分かるように、どのように学んだかということを確認する。